

## 「令和7年度全国学力・学習状況調査」の結果から

この調査は、小学校6年生・中学校3年生を対象に、学力及び学校生活や家庭生活の様子を把握し、今後の学習や生活の改善に必要な取り組みを検証していくために実施されているものです。今年度は国語・算数(数学)・理科が実施されました。

木曾岬町では、小学校・中学校の全教科で全国の平均正答率を上回りました。その中で、国語では、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうか等に課題が見られました。算数(数学)では、示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるか等に課題が見られました。理科では、学習した知識を基に、知識及び技能を関連付けて、分析して解釈できるか等に課題が見られました。今回の結果を踏まえ、見えてきた課題について指導改善を進めていきます。

		国語	算数・数学	理科
小学校 6年生	木曾岬町	○	○	○
	三重県	66.0	57.0	56.0
	全国(公立)	66.8	58.0	57.1
中学校 3年生	木曾岬町	○	○	○
	三重県	53.0	47.0	※498
	全国(公立)	54.3	48.3	※503

○:全国平均を上回ったもの

△:全国平均を下回ったもの

※ 中学校理科は、学習用端末を使ってオンラインで試験を行う CBT (Computer Based Testing) での実施に伴い、IRT (Item Response Theory: 項目反応理論) に基づく結果分析が行われているため、平均正答率ではなく、IRTスコアが公開されています。

※ IRTスコアは、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準に得点で表示されるものです。

※ 次年度以降、CBTで実施される教科の調査結果は、IRTスコアで示される予定です。

児童生徒質問紙調査では、小学校6年生・中学校3年生ともに「将来の夢や目標を持っている」という質問に肯定的に回答した児童生徒の割合が高い結果となりました。「夢に向かってがんばる木曾岬っ子応援キャンペーン」の取り組みが成果になって表れてきていると考えられます。

### ◎今後の取り組みについて

#### ① 継続的な授業改善の推進

・主体的・対話的で深い学びを実践し、児童生徒が主役となれるよう、授業改善に取り組みます。

#### ② タブレット端末を有効活用した授業づくりの推進

・デジタルドリルなどを活用しながら、子どもたちの学習の定着を図っていきます。

・子どもたちが自分の考えをまとめ、班や学級で交流し深め合うために、授業の中でタブレット端末を意図的に活用していきます。

#### ③ 「夢に向かってがんばる木曾岬っ子応援キャンペーン」の推進

・学校と家庭・地域がともに児童生徒のがんばりを認め、応援していく機運を高める取組を継続していきます。